

長島昭久氏「集団的自衛権、行使の枠組み定め論戦」

2014/3/30 3:30 | 日本経済新聞 電子版

野党保守系の超党派議員連盟「外交・安保政策研究会」の会長を務める民主党の長島昭久氏に議連の狙いなどを聞いた。(聞き手は政治部 辻隆史)

——議連の目標は何ですか。

「集団的自衛権の行使を認める『国家安全保障基本法』の提出を視野に入れ、まずは基本方針をまとめる。議連では『自衛権を行使する際の行動の枠組みを決め、それを法案の形にして(政府・与党に)ぶつけよう』と話している。そのアプローチしかない」

「安倍政権は行使を認める憲法解釈の変更を閣議決定で済ませようとしている。安保基本法案を提出しても審議されないまま放置される可能性もあるが、そこは世論を盛り上げていく。それができれば、後半国会では基本法案をめぐる論戦ができる」

——議連は将来の政界再編も見据えているようですが。

「野党を結集していく必要はある。その際にはある一定の幅のなかで再編しないと、これまでと同じことになる。かつて民主党は数合わせの論理で、実現可能性の低いマニフェスト(政権公約)を旗印に勢力を結集させた。同じ徹を踏むべきではない」

——一方で民主党執行部はリベラル色を強めているとの指摘もあります。

「政治力学的には理解できる。ただ安保については自分たちで政権を担って失敗もして、よく分かった。自民党の逆を張って政権を取ったときに整合性がつかなくなり、混乱したということ。外交・安保政策で失敗し、政権の信頼性が失墜すると、その後どんなに『事業仕分け』などをやっても国民は聞く耳を持ってくれなくなった」

「安倍政権にぐっと寄っていく勢力でも、共産党や社民党のような勢力でもない。そのどちらにもくみさない『ど真ん中』が浮き上がってくると私は信じている。そういう人材は民主党だけでなく、日本維新の会やみんなの党、結いの党にもいる。外交・安保の分野で、そういう勢力を束ねることができればいい。民主党だけの単独政権はできないので、野党を糾合しないといけない。そのために、糾合した野党の外交・安保政策はこれだ、というものを今から準備しておきたい」

——あくまで民主党中心の再編をめざすのですか。

「スジからいえば、江田憲司氏のように党を出て新党をつくるイメージがよいと思うが、現実



長島昭久・「外交・安保政策研究会」会長

的な可能性を考えたときに人材がどこにいるかという、維新もみんなも結いも大半は1年生議員だ。政党をつくり、与党とわたりあいながらガバナンス(統治)をきかせて組織を動かしていくという意味では、我々民主党に一日の長がある。民主党のリアリスト中心のほうが自然だと思う」

「他党では江田氏のほか、維新の山田宏氏やみんなの浅尾慶一郎幹事長も頼りになる人たちだ。民主党にも前原誠司元外相、野田佳彦前首相、玄葉光一郎前外相、細野豪志前幹事長もいる。彼らとは一緒にやっていくイメージだ」

——長島氏を含め、野党の保守系の人材は自民党も狙っているのでは。

「自民党しかこの国を統治できないというのであれば、そういう組み合わせもあり得ると思うが、私はまだ政権交代を捨てていない」

——長島氏が自民党に行く選択肢は。

「ない。残念ながら」

——保守とは何だと思えますか。

「英思想家バークがとなえたように、(急進的な)革命を否定して秩序ある進歩をめざし、歴史や伝統に根ざしつつ不断に改革を志向する、それが保守だと思っている。過激な保守でも信条保守でもない。リアリスト保守だ」

NIKKEI Copyright © 2014 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。